

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和3年12月3日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4675700100
法人名	有限会社エミ企画
事業所名	グループホームくりの
所在地	鹿児島県始良郡湧水町米永181-1番地 (電話) 0995-74-1220
自己評価作成日	令和3年10月22日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和3年11月24日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは県道55号線沿いに位置し、眼前に栗野岳の山々を朝夕仰ぎ見ることが出来、自然豊かな環境にあります。玄関先やテラスでは利用者がゆっくり寛げる長椅子やテーブルを置き、各自が外気浴を楽しんだり、茶話会や1・2階の交流会の場として活用しています。新型コロナウイルス禍でご家族との面会制限を余儀なくされている中、当ホームは窓越しの他に、テラスにパーテーションを置き面会して貰っています。より身近にご家族を感じて頂けていると思います。敷地内には多目的ホール「ふるはうす」があり、ホームの行事(誕生会、敬老会)を開催、各種研修会を行っています。又、地域住民へも開放し高齢者福祉や認知症の理解を深める努力をしています。管理者及び職員は理念や活動目標に沿って、利用者様の誇りや尊厳を重んじ、日常生活では残存機能を活かした自立支援を心がけ、無理のないように心身の状況に配慮した利用者個々のケアに取り組んでおります。又、一緒に役割を行ったり、趣味活動で充実した生活が送れるように支援しています。設備面では気泡浴や24時間入浴可能な設備を導入し、自家製ヨーグルトで腸の活性化により便秘の改善、免疫力の強化を図っております。毎日の食事、行事食(おせち、誕生会食)や行楽弁当は旬の食材を使用し職員が手作りで入居者様に提供しております。四季折々の食事や行事を通じ、四季を感じながら懐古話に花が咲いております。日々笑顔あふれる「アットホームな施設」を念頭に置き、利用者様の「真の家族」として皆様の支援を行っています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、町中心部から車で数分の位置にあり、栗野岳の山々を背後に眺められる県道沿いに設置されている。近隣住民や地域の方々にも溶け込んでおり、ホームや地域イベントなどを通じて社会交流が図られている。事業所は、「ふるはうす」という多目的ホールを地域に開放しており、コロナ禍中も2ヶ月毎の運営推進会議などは開催されている。新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、地域行事が中止され、ホームの行事なども自粛している状況であるが、管理者や職員は、利用者の方々の心身の状態が悪化しないよう施設内での生活活動を検討したり、レクリエーション活動を積極的におこなっている。

食の自立に関心が高く、ランチョンマットに陶器の食器を取り入れ季節変化を感じていただけるよう花や葉を添えて季節を演出している。手作り味噌、地元食材や菜園などで栽培された旬の野菜を中心に職員が調理している。能力に応じた利用者のお手伝いもあり、毎日ヨーグルトや牛乳などの乳製品、豆乳を取り入れ腸活を目指している。おせちなどの特別食、節分、ひな祭り、敬老会などの行事食も楽しんでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念は玄関、ロビーに掲示しており、毎朝の申し送り時や毎月の職員会議時に唱和して意識を高め、より良いケアへつなげる様理念を共有し実践している。	開設当初からの理念は、運営者の思いが込められたもので、玄関などに掲示され、パンフレットにも記載して毎月職員会議で唱和し意思統一を図っている。別途、活動目標があり、家族と思える温かいホーム作りを目標に日々のケアに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナ感染症が拡大していない時は2020年1月までは日常的に交流できていたが、2020年1月より交流できていない。収束時には、積極的に交流したい。	毎年、地域の豊祭相撲や夏祭りに参加したり、ホーム主催の敬老会には家族や地域住民の参加が得られていたが、現在は自粛している。近隣を散歩する時はご近所の方と挨拶を交わし会話して交流している。法人の多目的施設「ふるはうす」は地域に開放され、運営推進会議などにも活用されている。ホームの機関紙は病院や行政などにも配布され日々の取り組みを伝え情報を共有している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	年4回発行する当ホームの機関紙「ほほえみ通信」を各事業者へ配布してホームでの取り組みを通知している。コロナ収束後は、中学生の福祉体験を再開し地域社会への認知症の理解アピールに努める		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期（年6回）に会議を開催している。利用者状況、サービスの実際について、現在抱えている問題（コロナ感染対策等）について出席者の意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は、コロナ禍であっても感染対策を徹底し集合形式で開催していた。中学生の福祉体験などの行事に合わせて開催することもある。地域に開放している「ふるはうす」にて開催し出された意見は、議事録で情報共有を図り職員会議などで協議して業務の改善やサービス向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	平素より連携を密に取り事業所の実情やサービスの取り組みを積極的に伝え協力関係を築いている。2020.2021年は町主催の研修やホーム行事（敬老会）等への参加依頼が出来ていない	町職員には、新型コロナウイルス感染症予防のためのマスクやゴム手袋が品薄になった時に相談したり、入所相談を受け相互に協力関係を築いている。福祉事務所との連携や中学校で認知症についての説明をおこなうなど啓発活動をおこなっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について年3回勉強会を行い、職員同士身体拘束をしないケアを周知し実践している。身体拘束適正化検討委員会にて代替策を講じながら、命を守り転倒を予防することに努めている。（身体拘束が必要と認められた際は家族へ十分な説明をし同意を頂いている。）	身体拘束等の適正化を図るための指針が整備され、契約時や必要に応じて説明し同意をもらっている。安全策を講じながらどうしても拘束をおこなう場合などは、文書にて家族に十分に説明し代替策や廃止に向けて話し合っている。3ヶ月毎に会議を開催し、虐待防止などについても勉強会をおこない、定期的に研修も実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年3回勉強会を行っている。身体的のみならず、言葉や対応の仕方でも虐待につながることを周知し、虐待防止に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在必要とされる利用者はいないが、対象の利用者が日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、それらを活用できる様支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、契約書や重要事項説明書を読み合わせ、確認している。解約又は改定時にご家族（利用者は認知症があり判断できない時）の意向を尋ね、十分な説明を行い納得を図る。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2020.2021年はコロナ禍にあり、ご家族へは文書や、電話で通知し、電話があった時や、面会時に意見や要望等について伺いお応えしている。	年1回家族会があり、利用者や家族から希望や意見などを聞くように努めている。感染予防をおこない、障子を加工したパーテーションを活用し、1階テラスで面談をしたり、タブレットやLINE電話を活用して動画にて生活の様子を確認してもらい安心感を得ている。ほほえみ通信は、キーパーソンの方に郵送、毎月請求書と一緒に手紙にて本人の状況を伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は年2回個別に面談の場を設け、職員の意見や提案を聴き運営に反映させている。また毎月の職員会でも意見要望を聞いている。管理者は日ごろから職員とのコミュニケーションに努めている	事業所は、定年制はなく本人と面談し希望を踏まえながら、年齢を重ねても適材適所で働き、職員が働きやすくなるよう話し合い環境を整えているため永年勤務している職員も多い。また、子育て世代への支援も手厚くあり勤務に配慮している。	
12		otanosi  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や個々の職員の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように、職場の環境、条件の整備に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>コロナ禍の中、法人内外の研修がオンラインでの受講が出来るように設備を整えている。又学びたいことをスタッフから聞き、ホーム内での勉強会を開催し意欲向上に努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>通常積極的に町主催の会議や外部研修に参加している。新型コロナウイルス感染予防の為、2020.2021年は職員は外部研修会に参加できていない。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>ご本人から不安な事、困りごとなど要望を聴いたり、日常生活の中で会話する時間を多く作って、信頼関係を築くことに努めている。自ら訴えられない人については、表情から判断している。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>不安な事、要望を家族が話すことができるように、耳を傾けている。困りごとなど気軽に話せるように、安心できる関係作りに努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>利用前の生活歴や趣味などを確認し、入所後は出来ること等を把握し、その人らしさが反映されたサービス計画に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物畳みや調理の下準備など、出来る役割を一緒に行い、ホームが我が家であり、スタッフも家族の一員と思って頂けるように接している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナの影響もあり、なかなか対面できない家族もいるが、電話や手紙など連絡を取り、家族との信頼関係を築いて共に本人を支えるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	2020.2021年コロナ禍により外泊、外出などしていない。地域の行事にも参加していない。コロナが収束したら以前のように外泊、外出して頂けるよう支援に努める。	おたのしみ委員会活動では、年間の行事や地域イベント見学などを計画し、初詣や豊祭相撲見学などを通じて地域の方との交流に参加していたが現在は自粛している。行きつけの理髪店に外出したり、資格を持った職員がヘアカットをホーム内で行い好評を得た。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立することが無いように、職員が間に入り、交流できる様支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された際は電話等で状態を確認したり、逝去された際はお通夜、葬儀に参列している。落ち着かれる頃お便りや、タブレットラインなどで、連絡をとり心のフォローを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	表情や言葉から意向や、思いを把握するよう努めている。困難な場合には職員間で話し合い本人本位に検討している。	利用者とは、日頃の会話のやりとりや表情、しぐさなどを確認しながら家族や職員などと情報交換したり、本人の思いを汲み取るよう話し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人の生活歴を把握し支援している。デイケアを利用している方は利用時に馴染みの方と交流されている方もおられる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の様子を見て、一緒に散歩したり会話を交わしその時の思いや、体調などを把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のケア会議や担当者会議を開き、本人、家族、担当者からの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画書は、事前に家族に郵送され、電話や面談にて内容を説明し交付している。モニタリングは毎月職員全員で実施しており、計画作成担当者は分析の結果、柔軟に見直しを検討している。職員は、本人の役割や楽しみを計画に位置づけて本人主体の計画になるよう介護計画を作成している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別にバイタル、食事量、水分量、排泄、睡眠状態などを把握し職員間で共有している。評価表を各担当者が作成し今後の支援などに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人、家族の要望を聞いて、日頃の変化をお伝えし、不満の生じないケアを心がけている。骨折をされ入院せずベッド上で安静治療して頂くなど柔軟に対応している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>コロナ禍で地域の行事も開催されず参加できていないが、収束時は資源を活用し本人が豊かな生活を送られるよう支援する。行政、町議、運営推進にも相談しながら支援行なっている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>定期受診、往診にて健康状態を把握し、主治医の指示を仰ぎ本人、家族へ伝えている。急変時や体調変化があった際にも、かかりつけ医と連携を密にとり、重篤化の予防に努めている。</p>	<p>定期的に内科や眼科の訪問診療を受けているが、他科受診や通院の時間によっては家族に依頼している。毎日、看護職員による健康観察があり、薬剤師や栄養士との医療連携が図られている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個々の利用者の日頃のバイタルサインなどを把握し、平素と違う言動があった場合、職場内の看護師や協力医院の看護師へ相談し適切な受診や看護を受けられる様支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中の利用者様の状態の情報を交換している。退院の許可があった際は、病院関係者と連携を取り、退院後の生活に向けての指示を仰ぎ、より良い介護に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期に向け支援をどのようにするか、十分に家族と話し合いを重ね、職員間で情報を共有し、医療との連携を図りながら、支援に取り組んでいる。	重度化や看取りに関する指針があり、看取り介護に関する指針については、令和3年度に指針を整備している。看取りについての事前確認書は定期的に取り交わし、主治医は在宅医療に熱心に取り組んでおり、ホームでの看取りを希望される利用者、家族が多い。職員全員が家族と一丸となってチームケアにて終末期ケアに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時に備え対応方法、応急処置の方法など勉強会を定期的実施している。また、発生した事例を振り返り次事案が発生した際の対応に繋げている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の避難訓練時火災を想定し全職員消火訓練を行い、避難できる方法を身につけている。現在はコロナ禍にあり、地域との行事は行っていないが協力体制は築いている。</p>	<p>年2回、昼夜想定にて通報、避難、消火訓練、応急手当などの研修を実施している。町役場や地域住民、家族の協力体制があり、ハザードマップを掲示し意識向上を図っている。安全対策委員会があり、新型コロナウイルス、インフルエンザ予防、食中毒などの感染対策などを徹底している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いや接し方については、ケア会議や職員会で勉強会を行っている。特に入浴、トイレ案内時には、プライバシーを損ねない声かけや対応を行っている。	利用者の尊厳や誇りを傷つけることがないように配慮し、言葉使いや対応には十分に気をつけるようにしている。ケア会議や職員会議では勉強会をおこない、言葉の使い方には特に注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自分より思い、希望を訴えられない方へは、何をどうされたいのか、日々の関わりの中で思いを推測し、本人の希望に添える様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事を摂取するスピード等を考慮し時間を調節している。入床後は居室でテレビを観る等好きなことをして頂いている。起床時も眠気等を聞き、起きて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	散髪は職員が定期的に理髪店へ同行したり、ホーム内でスタッフが散髪行っている。首にスカーフを巻いたり、おしゃれも楽しんで頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に野菜の下拵えをしたり、調理の準備をして頂いている。お盆拭きなどをして頂いている。	地元の新鮮な食材を活用し、職員が調理しているが、体重コントロールを図るため、毎月、管理栄養士が来訪し、栄養指導を受けている。菜園があり、テラスでミニカフェをしたり、手作りのお弁当を持参して外出することもある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士に毎月栄養指導を受け、一人一人の体に合わせた食事の提供をしている。また、形状にも考慮しトロミを使用したりして一人一人状態に合わせ工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、食後うがい用のお茶を準備し、口腔ケアを行っている。ブラッシングが困難な方には、口腔内スポンジ、ウエットティッシュで清拭し、清潔保持に努める。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定期、又随時にトイレへの案内を細目に行い、トイレでの排泄や排泄の自立に向け支援を行っている。車椅子使用、寝たきりの方も1日1回はトイレに案内しトイレでの自然な排泄に努める。	排泄チェックをおこない、排泄のリズムを把握し、なるべくトイレで排泄ができるよう取り組んでいる。食事を工夫し運動を取り入れ、薬剤に頼らないケアを実践している。安易に紙パンツを使用せず、布下着に尿量に合ったパットを当てるなど工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を活用し、トイレ案内時に腹部マッサージをしたり、自家製のヨーグルトで腸の活性化を図っている。主治医に相談し、内服にて排便コントロールを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入居者様方が入浴の準備、洗身、洗髪が出来なくなっておられ、入浴日、時間は、決めているが、ご本人の体調や、気分に応じて変更している。	両ユニットともユニットバスであるが浴槽には気泡浴が楽しめる設備があり、24時間入浴が可能で、保温効果もある。利用者によっては、職員が二人介助している。移動は、シャワーキャリーを活用し転倒予防を心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活習慣に合わせて、日中も居室にて休んで頂いたり、ソファでゆっくり過ごして頂いている。夜間も細目に巡視し安心して休まれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をファイリングしている。服薬介助は本人、職員が共に確認し確実に服薬している。内服薬変更の際は連絡帳に記載し、スタッフ周知に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お茶の時間に紅茶、コーヒーなど、日替わりで飲んで頂き、好きな食べ物を取り入れている。洗濯物畳み、パズル、読書、畑の野菜の収穫をして頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響により以前のように出かけていない。近くの公園まで花見に行ったり、神社へ初詣に出かけている。天候の良い日は園庭を散歩したり、園外を散歩し気分転換を図っている。	コロナ禍であり、以前のような外出ができていないが、天候や本人の体調や希望を踏まえ、近隣を散歩したり、買い物支援、ドライブ、歯科受診などを家族と協力しながらできる限りの外出で気分転換を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭は家族が管理されているので、現在はお金を所持されている方はいない。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話や手紙が届いた際はすぐに本人様に取り次いでいる。タブレットを使用し、テレビ電話や写真、動画もメールで送信している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビング、玄関、居室等季節を感じて頂ける様飾りつけをしている。テレビなどの音量も雑音にならないように気を付けている。共用空間や居室は室温、湿度管理を行っている。</p>	<p>共有スペースは、クリスマスツリーが飾られ、壁には、利用者の写真や作品、季節に合わせた貼り絵や生花が飾られている。ソファに座りテレビ鑑賞をしたり歓談ができるよう家具が配置されている。園庭やテラスにもテーブルや椅子が置かれ外の景色や菜園を觀賞していただいている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共用空間のリビングにソファを2カ所に設置し、思い思いの場所で過ごされるよう工夫している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅で使用されていた家具、寝具を持参して頂き、我が家と同じように使っている。写真を飾ったり、季節に応じた飾りつけをして居心地良く過ごして頂いている。</p>	<p>居室扉は引き戸、窓は障子、フローリング仕様で、家族写真や寝具などの使い慣れた品を持ち込み思い思いに居心地よく過ごせるよう工夫がされている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室入り口にはご本人の写真、氏名を掲示（ご家族に同意を得ている）し、トイレ、浴室などはイラストにて示している。危険と推測されるものは取り除き、安全、安心に生活して頂いている。</p>		



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない